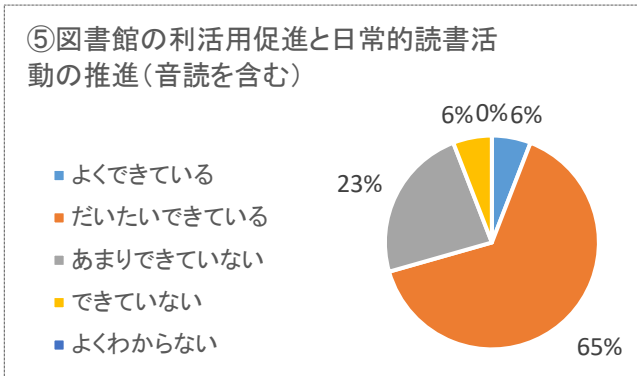
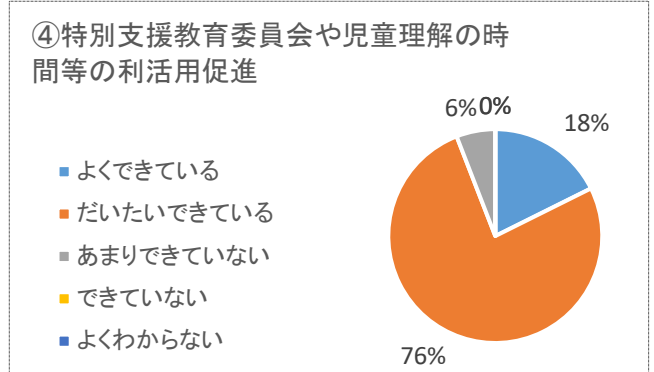
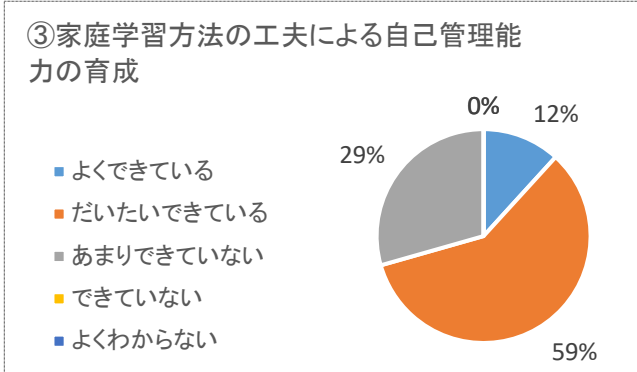
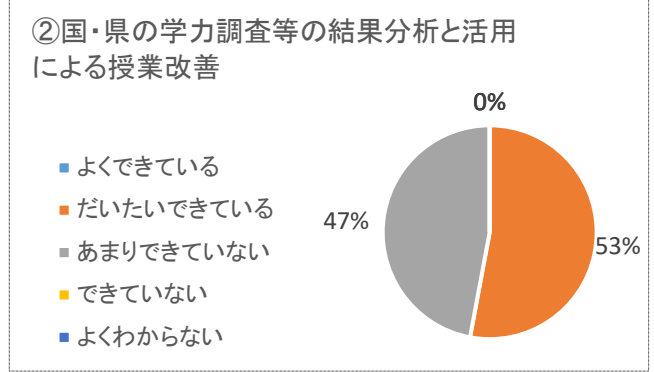
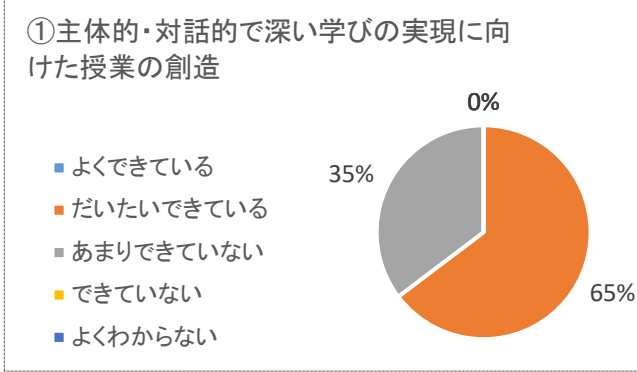
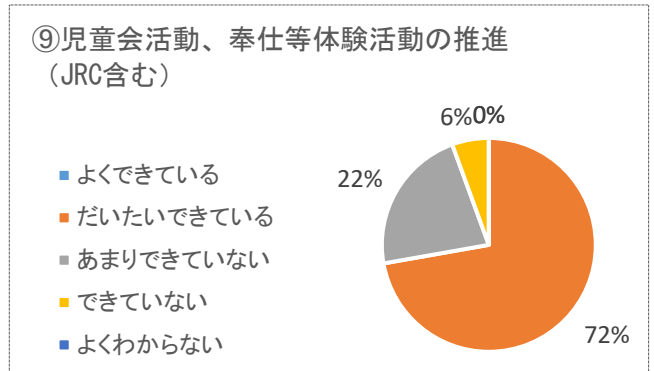
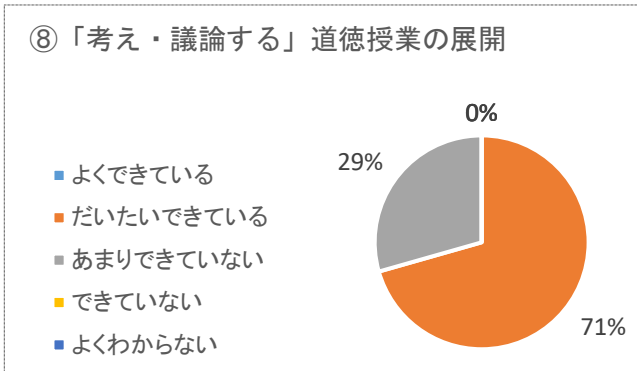
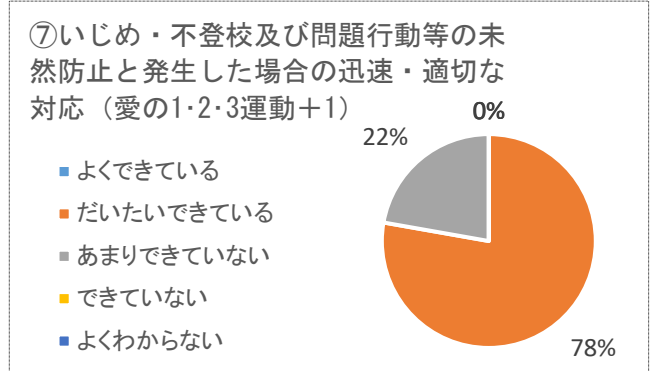
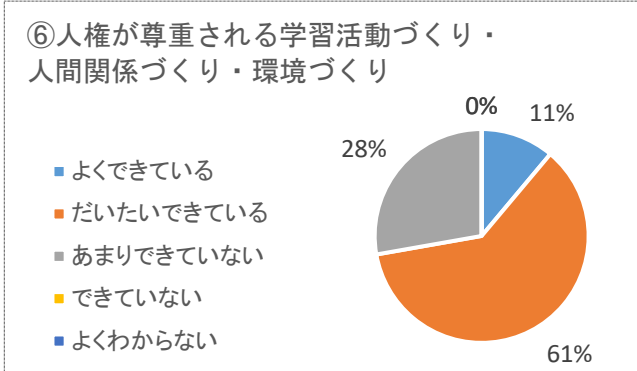


I 自己評価【職員アンケート結果及び考察】

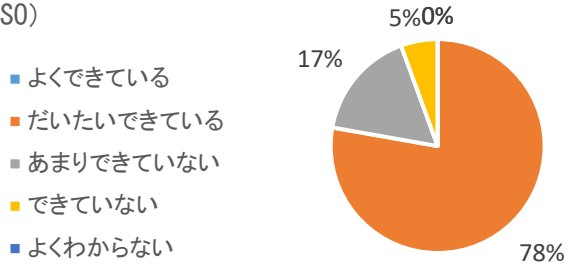
1 確かな学力の育成



2 豊かな心の育成

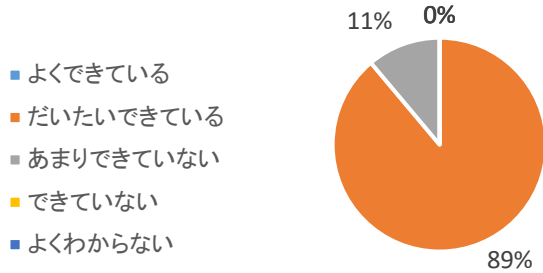


⑩美しく潤いのある環境づくり（清掃、栽培、掲示、言語、学校版環境ISO）

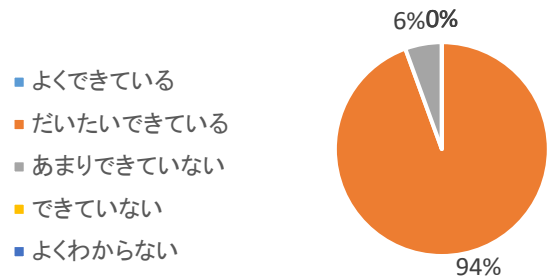


3 健康な体の育成

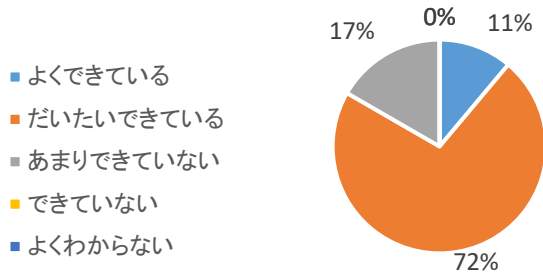
⑪安全指導・安全管理の徹底と危険予測・回避能力の育成



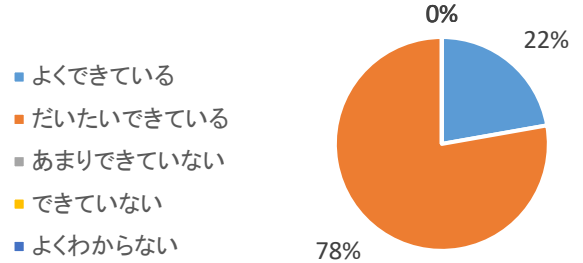
⑫健康的な生活習慣の形成



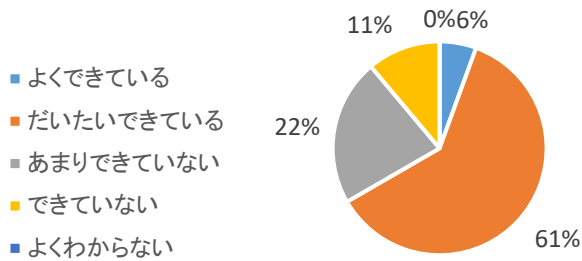
⑬指導計画に基づいた教科体育の実施（運動経験の保障）



⑭要配慮児童への組織的対応（食物アレルギー、疾病等）

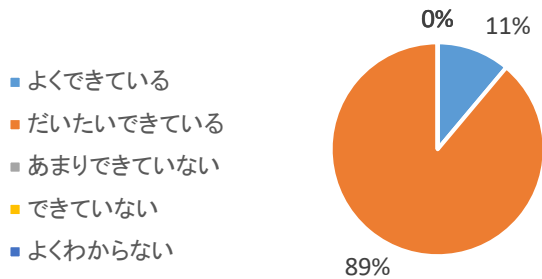


⑮望ましい食習慣の形成に向け家庭と連携した食育の推進

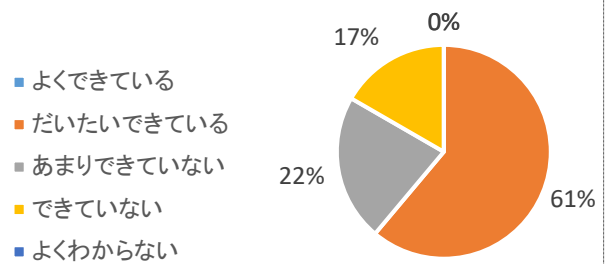


4 地域とともにある学校づくり

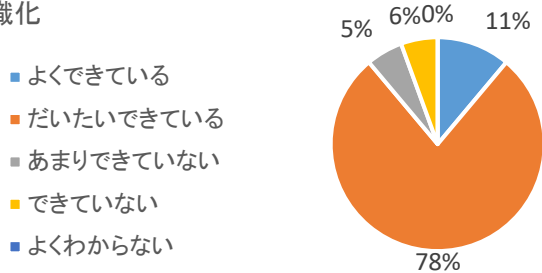
⑯保護者や地域への情報発信（各種便り、ホームページ、マチコミ、他）



⑰コミュニティ・スクールの活性化

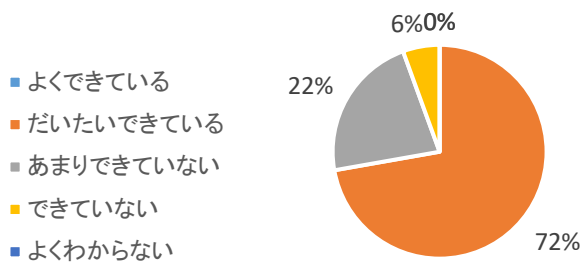


⑱地域の教育資源（ひと・もの・こと）の活用と学校の地域貢献活動の意識化

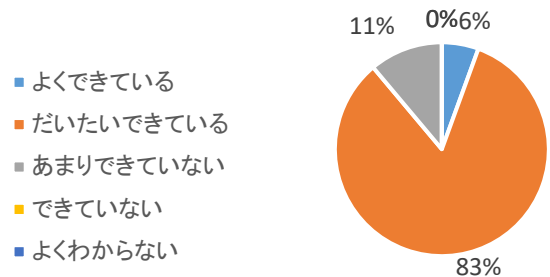


5 育成を目指す3つの資質・能力

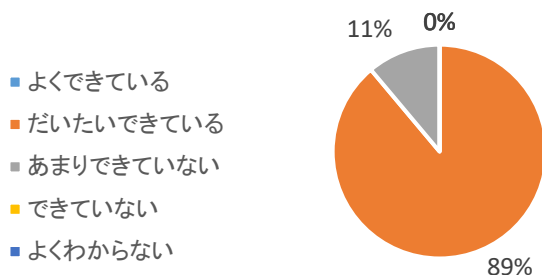
⑲主体的に取り組む力【すすんでとりくむ】



⑳協働する力【なかまととりくむ】



㉑人間関係力【おもいやり】



4と3の平均は79%であった。よい評価項目3つは、I「④特別支援教育委員会や児童理解の時間等の利活用促進」、Ⅲ「⑪健康的な生活習慣の形成」、Ⅲ「⑭要配慮児童への組織的対応(食物アレルギー、疾病等)」、Ⅳ「⑯保護者や地域への情報発信」である。また、やや低い評価項目3つは、I「①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造」、I「②国・県の学力調査等の結果分析と活用による授業改善」、Ⅳ「⑰コミュニティ・スクールの活性化」である。「育成を目指す3つの資質・能力」については平均83%である。各学級や各校務分掌での取組を見直して改善を図っていききたい。また、授業改善については、校内研修でも国語科の研究を通して取り組み、本年度の県学力・学習状況調査結果が向上していることから成果は見られている。